

1. SG1会合の概要

日程・場所：平成28年6月2日(木)～6月10日(金)、スイス(ジュネーブ)

審議内容：SG1は周波数管理技術(WP1A)、管理方法(WP1B)、電波監視(WP1C)を担当。
ワイヤレス電力伝送、テラヘルツデバイス、電波監視技術等に関する勧告、報告等について審議。

参加者：米、加、英、仏、蘭、露等から約180名が参加。日本から計23名参加。

2. 会合の主な結果

(1) ワイヤレス電力伝送(WPT)システムの周波数特定に向けた検討(WP1A、WP1B)

【背景】

- 前回会合でWPTの利用周波数に関する暫定新勧告案(WPTの利用周波数帯として6765-6795kHzを特定(19-21/59-61kHz、79-90kHz及び100-300kHzは、検討中の周波数帯として記載))を作成し、関連するITU-Rの各WPに送付された。
- WRC-15において、EV用WPTをITU-Rで緊急の対処を要する研究(urgent studies)と位置づけ、研究結果をWRC-19における無線通信局長レポートに盛り込むことが合意されたことをうけ、今回会合では、我が国の制度化状況や周波数共用検討のための手法等について、WPTに関する技術やアプリケーション等について記載したITU-R報告SM.2303に盛り込むための寄与文書を入力した。

【結果】

- 暫定新勧告案に対して関連する各WPから勧告化に反対する意見がなかったことから今回会合での採択を検討したものの、英蘭独が欧州域内の検討が十分でないことや周波数帯の追加検討に時間を要することを主張し、採択に強く反対した。議論の結果、今回会合での採択は見送るが、2017年6月会合までに追加の意見がなければ、同時採択承認手続(PSAA)に入ることがWP1Aの合意事項とされ、議長報告に記載された。
- ITU-R報告SM.2303に対し、我が国から改定案を提案。一方、EBU(欧州放送連合)から、同報告に盛り込むための長波・中波放送の保護基準に関する寄書が入力されたが、我が国から、国内で実施した実証実験結果との相違について検討が必要と指摘し、議論の結果、双方の記載を[]付きで盛り込んだ改定案が議長報告に添付され、継続検討とされた。
- 我が国の寄書を元に、BEAM WPTアプリケーション情報に関する暫定新報告案のための作業文書が改定され、新報告として承認された。また、周波数共用と人体影響評価に関する新報告の作業開始が合意された。

2. 会合の主な結果(続き)

(2) 275-450GHzの周波数の利用促進に向けた検討(WP1A)

【背景】

- WRC-15において、275-450 GHzの陸上移動業務と固定業務への特定がWRC-19の議題として承認された。
- 既に開催されたITU-Rの各WPからそれぞれの所掌業務の特性に関する情報が送付された。
- 今回会合では、議題の作業計画案、CPMテキスト概要案、関連するITU-Rの各WPへのリエゾン文書案を提案する寄与文書を我が国より入力した。

【結果】

- 日本提案を元に作業計画案及びCPMテキスト概要案が作成された。
- 日本及び米国提案に基づき、関連するITU-Rの各WPに対し、275-450GHzにおける電波伝搬モデル並びに陸上移動業務及び固定業務のシステム特性の提供を求めるとともに、今後の作業計画案を知らせるリエゾン文書を発出した。

(3) アップリンク送信の実施を認可済端末に制限するための追加手法の必要性及び領土内の無認可地球局端末の管理のための手法の研究討(WP1B)

【背景】

- RA-15において、ITU-R決議64「無認可運用される地球局の管理のためのガイドライン」が策定された。
- ITU-R決議64の策定を受け、WRC-15において、「衛星へのアップリンク送信を認可済みの端末からのものに制限するための追加手法の必要性についての研究及び主管庁による無認可地球局端末の管理を支援する手法の研究」を、ITU-Rで緊急の対処を要する研究(urgent studies)と位置づけ、研究結果をWRC-19における無線通信局長レポートに盛り込むことが合意された。
- 今回会合では、議題の作業計画案、CPMテキスト概要案等を提案する寄与文書がWP1B議長、エジプト、中国より入力された。

【結果】

- 作業計画案を作成し、関連するITU-Rの各WPにリエゾン文書を発出した。
- CPMテキスト概要案及び新報告案のための作業文書については次回へキャリアフォワードされた。

(4) 暫定新勧告案「DF(方向探知)精度の実地測定」に向けた作業文書の修正提案への対処(WP1C)

【背景】

- 前回会合で暫定新勧告案「DF精度の実地測定」に向けた作業文書について議論されたが、一部測定パラメータについて調整が完了しなかったため、コレスポンスグループ(CG)を設置し継続審議することとされた。
- 今回会合では、本勧告案が主眼とする試験方法について、各国間で理解が異なっている可能性があるため、試験方法を明確化すべきであることや、調達者と提供者が協議してパラメータを決定することが妥当であること等を提案する寄与文書を我が国より入力した。

【結果】

- 我が国からの提案が概ね反映され、勧告化することが合意された。

2. 会合の主な結果(続き)

(5) 暫定新勧告案「DF感度」に向けた作業文書の修正提案への対処(WP1C)

【背景】

- 前回会合では、中国より、DF感度測定のための標準的試験方法等を定めた暫定新勧告が提案されたが、十分な議論がなされなかったため、CGを設置し、継続審議することとされた。
- 今回会合では、DF感度の規定のために必要なDF精度を、調達者が規定することを可能とすることや、DF感度測定に影響の大きいDF積分時間について、中国案の2秒の採用を退けITU-R報告SM.2125-1(H/V/UHF 監視受信機及び監視局における測定パラメータと測定手順)に記載されている1秒とすること等を提案する寄与文書を我が国より入力した。

【結果】

- 我が国からの提案が概ね反映され、勧告化することが合意された。

(6) 屋内環境における電波雑音の測定法に関する検討(WP1C)

【背景】

- 前回会合において、我が国が技術試験事務により構築した屋内環境に適した電波雑音の測定法に基づき、新勧告を策定とすることとなったが、一部不完全な記述があったため、記述の充実化が必要とされた。
- 今会合では、測定結果を得るための具体的なデータ処理手順の記述の追加等を提案する寄与文書を我が国より入力した。

【結果】

- 作業文書に対して、我が国の提案に基づき不完全な記述を修正するとともに、独ローデ・シュワルツ社の提案に基づき測定用の受信機としてモニタリングレシーバを追加した文書を勧告化することが合意された。

3. 今後のスケジュール

WP1A、WP1B会合：2016年11月(場所：ジュネーブ)